

# 西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）キュウシュウサンギョウダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）マツカサゼミナール
九州産業大学	商学部	松笠ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）マツカサシーチーム	フリガナ）ホンダカズマ	5人	無
松笠Cチーム	本多一真		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

- ・指示棒
- ・プレゼンポインター（クリッカー機能付き）
- ・新・がんばる商店街 77 選
- ・参考資料のボード×2

## 研究テーマ（発表タイトル）

商店街活性化に関する研究 ～九州の10商店街の事例より～

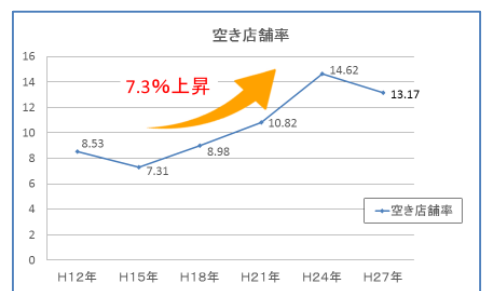
※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

近年、様々なメディアが社会問題として商店街の衰退を取り上げている。経済産業省中小企業庁が平成 27 年に公表した商店街実態調査報告書では、商店街の約 70%が「衰退している」「衰退の恐れがある」と答え、「繁栄している」「繁栄の兆しがある」と答えたのは 5%ということが分かっている。商店街は、商業者の集積として地域経済の重要な役割を担うとともに、多様なコミュニティ機能や公共的機能を担っている。そのため、商店街の衰退は、単に地域経済やコミュニティ機能が失われるだけでなく、治安の悪化などにも繋がっているという点で問題があると言える。そこで、本研究はどのようにすれば商店街を活性化させることができるのかについて考察を行う。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

商店街は、1982 年をピークに緩やかに衰退しはじめ、現在も厳しい状況にある。商店街の空き店舗率の推移をみると、平成 12 年から平成 15 年まで減少しているが、平成 24 年にかけて空き店舗率は約 7.3%も上昇していることが分かる。平成 24 年から平成 27 年にかけて、商店街の衰退がメディアで大きく取上げられはじめた為、各商店街が対策を行い空き店舗率は僅かに減少したのだろう。しかし、13.17%と高い数字を保っている。その衰退の主な原因として、モータリゼーション(車社会)の進展や大規模小売店舗立地法の改正による大型小売店の郊外への出店、それらの影響による中心市街地からの人口の減少、情報技術の進展によるネット販売化などが挙げられる。



平成 27 商店街実態調査報告書を基に作成

### 3. 研究テーマの課題

商店街をどのようにすれば活性化できるのか調査する。活性化の方法を調べる上で、経済産業省中小企業庁が 2009 年に公表した『新・がんばる商店街 77 選』について着目することにした。『新・がんばる商店街 77 選』とは、商店街の活性化に向け、全国各地で行われている独自性のある取り組みや、実際に商店街の賑わいに繋がっているものを紹介し、活性化のモデルの事例として全国的に普及・展開することを目的としているものである。選定方法は、社会的弱者に配慮した商店街づくり、環境に優しい商店街づくり、安心・安全な商店街づくり、地域の魅力を発信する取り組み、地域住民と連携したまちづくりの取り組みの計 5 つである。これらの活性化モデルの事例として取り上げられている商店街の現状を 8 年前と比較し分析する。なお、本研究では、『新・がんばる商店街』の九州に属する 10 商店街に絞り、調査を行う。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

#### 〔調査 1〕

『新・がんばる商店街 77 選』に取り上げられた九州に属する 10 商店街の現在の状況を調査したところ、繁栄していると答えた商店街は、2 つしかないことがわかった。さらに、取り上げられた取り組みを選定方法別に分類してみたところ、繁栄している 2 つに共通点はなく、繁栄している商店街と衰退している商店街に共通点があることがわかった。

#### 〔調査 2〕

調査 1 の結果、繁栄している 2 商店街（浜んまち商店街・宇宿商店街）では、中小企業庁の選定方法以外に活性化した要因があることが考えられる。その要因を明らかにするため、追加調査を行った。追加調査を行うにあたり、いくつかの文献で、店舗数を増やすことが活性化の方法として挙げられているということを知った。それを踏まえ、九州に属する 10 商店街を 22 項目（5. 研究・活動内容を参照）で調査する。追加調査の結果 4 つのことが分かった。1 つ目は、人口の減少が、必ずしも衰退の原因になるとは限らないということだ。人口が増加している商店街は全て衰退しており、人口が減少している 3 つの商店街のうち 2 つは繁栄していることが分かった。2 つ目は、繁栄・衰退のイメージ調査と商店街店舗数の変化についてだ。イメージ調査で衰退していると答えたほとんどの商店街に店舗数の減少が見られた。また、繁栄していると答えた商店街でも店舗数の減少は見られる。3 つ目は、繁栄している商店街は主なターゲットを外部に設定しているということだ。浜んまち商店街は外国人観光客、宇宿商店街は県外住民を主なターゲットとしていることがわかった。4 つ目は繁栄している商店街は 8 年前と比べ飲食店の数が大幅に増加しているということだ。反対に衰退している商店街では飲食店の数が全て減少していることがわかった。さらに、現地調査を行った結果、繁栄している 2 商店街では、和食、郷土料理の店が多いこともわかった。

#### 〔考察〕

- ・『新・がんばる商店街 77 選』の九州地区の選定方法は間違っており、活性化に向けたモデルとして限定的と考えられる。
- ・人口の増加が商店街の活性化につながるとは言えないと考えられる。
- ・店舗数を増加させることが商店街活性化の方法であると、複数の文献が主張しているが、必ずしもそうとは限らないと考えられる。
- ・主なターゲットを地域住民ではなく、外部に設定することが重要だと考えられる。
- ・地域の郷土料理等を提供する飲食店を増やし、地域の魅力を感じてもらうことが重要だと考えられる。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

『新・がんばる商店街 77 選』が公表された 8 年前から、商店街はどのように変化したのか、2017 年 8 月 2 日～8 月 9 日（土日は除く）の期間に、『新・がんばる商店街 77 選』に選ばれた九州地区の六ツ門商店街(福岡県)、大町商店街(佐賀県)、長崎浜んまち商店街(長崎県)、健軍商店街(熊本県)、別府市中心部 8 商店街(大分県)、トロンロン商店街(宮崎県)、宮崎市内商店街(宮崎県)、宇宿商店街(鹿児島県)、銀天街商店街復興組合(沖縄県)、一番街商店街(沖縄県)の 10 商店街の、商店街組合の理事長又は各市町村役所の商工復興課職員に、「繁栄」又は「衰退」のイメージ調査を電話で行った。その結果から、『新・がんばる商店街 77 選』の選定方法に間違いがあるのではないかと思い、九州 10 商店街を選定方法別で分類した。分類具体例として六ツ門商店街を挙げた場合、8 年前の資料に、タウンモビリティ事業を毎週木・土・日曜日に実施し、身体状況に合わせて電動スクーター・車椅子等を無料で貸し出していると記載されていることと、私達の現地調査で、商店街内に宅配サービスを行う店舗を設置している等の取り組みも行ってたという 2 つのことから「社会的弱者に配慮した商店街作り」をしていると判断する。次に研究の追加調査として 2017 年 8 月 20 日～9 月 24 日に、平成 27 商店街実態調査

報告書に記載されていたグラフをもとにした 22 項目(人口・店舗の数・店舗の種類・会員数・規模・タイプ・主なターゲット・防犯、防災・外装工事・休憩所・駐車場・WI-FI・勉強会・高齢者向けサービス・子育て支援サービス・買い物代行・コミュニティの場の設置・広報・ポイントカード・SNS・イベント数・環境美化活動)を九州に属する 10 商店街に電話調査及びを行い、また 2017 年 10 月 7 日と 10 月 14 日に六ツ門商店街、長崎浜んまち商店街、宮崎市内商店街、宇宿商店街の 4 商店街に現地調査を行った。

## 6. 結果や今後の取り組み

### [結果 1]

『新・がんばる商店街 77 選』の九州に属する 10 商店街を調査した結果次のようになった。10 商店街に繁栄・衰退についてイメージ調査を行い、繁栄していると答えた商店街は 2 つ、衰退していると答えた商店街が 8 つということがわかった。また、選定方法から分析をすると繁栄している 2 つに共通点はなく、繁栄している商店街と衰退している商店街に共通点がある事から、『新・がんばる商店街 77 選』の九州地区全 10 商店街では、選定方法は間違っており、活性化のモデルとして限定的だということも明らかにすることができた。

### [結果 2]

結果 1 のイメージ調査で 2 つの商店街が繁栄していると答えたことから、活性化した要因を探るため 10 商店街をさらに分析し、追加調査を行った。追加調査から明らかになった事を考察した結果、地域の郷土料理等を提供する飲食店を増やし、外部の人に地域の魅力を感じてもらい、来街してもらうことが、商店街を活性化するための一つの方法であると結論付けられる。

### [今後の課題]

地域の魅力を活かした飲食店を、どのように増やし、情報を発信していくか考案することと、今回の研究では九州に絞ったため、他の地域についても調査することである。

## 7. 参考文献

中小企業庁 (2016) 『平成 27 年度 商店街実態調査報告書 (平成 28 年 7 月更新)』

中小企業庁 (2009) 『新・がんばる商店街 77 選』

安藤靖華 (2007) 「商店街衰退のリスクからその再生を考える」 香川大学 経済政策研究 第 3 号 PP.109-125

竹内裕二、田村馨 (2003) 「商店街衰退の要因に関する仮説的な考察」 福岡大学商学論叢 48(3) PP.349-390

辻井啓作 (2013) 『なぜ繁栄している商店街は 1 %しかないのか』 CCC メディアハウス

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更 (チームの人数・交代など) は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の (過去に他誌・HP などに発表されていない) ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合は、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先 (使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など) を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑